

令和5年度 世界遺産研究協議会

2023 World Heritage Seminar

13-17, 21 December

NOT available online



東京文化財研究所
Tokyo National Research Institute
for Cultural Properties

[https://tobunken.go.jp/
kokusen/whs2023/](https://tobunken.go.jp/kokusen/whs2023/)



複雑化する世界遺産をみまもる目
— 作業指針、事前評価そして影響評価 —

令和5年12月21日(木) 13:00～17:30 東京文化財研究所セミナー室
対面開催(オンライン配信なし) 〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43
文化遺産国際協力センター国際情報研究室 email: ishida-c2p@nich.go.jp tel: 03-3823-2420

令和5年度 世界遺産研究協議会

複雑化する世界遺産をみまもる目

—作業指針、事前評価そして影響評価—

2023年12月21日(木)

13:00～17:30

プログラム

東京文化財研究所

セミナー室

開会挨拶 齊藤孝正 東京文化財研究所長

趣旨説明 金井 健 文化遺産国際協力センター国際情報研究室長

13:10～15:45 報 告

世界遺産の最新動向

鈴木地平 文化庁 文化財調査官(世界文化遺産部門)

近年の作業指針の改定とその背景—対話と信頼性の確保のために—

二神葉子 文化財情報資料部文化財情報研究室長

世界遺産の文脈における影響評価のためのガイダンス及びツールキット

西 和彦 文化庁 主任文化財調査官(世界文化遺産部門)

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の保全と遺産影響評価

中澤寛将 青森県 特別史跡三内丸山遺跡センター 文化財保護主査

16:00～17:25 パネルディスカッション

登壇者:上記報告者 司会:金井 健

閉会挨拶 友田正彦 副所長／文化遺産国際協力センター長

17:30～19:00 情報交換会(会費制)

セミナー室 ホワイエ

2022年に創設50周年を迎えた世界遺産条約は、もっとも成功した国際条約ともいわれるが、社会との関わりが増すにつれて新たな課題も生まれ、今やその制度運用は遺産保護の枠に留まらなくなっている。近年、遺産の価値づけや保護状況の評価のあり方は各国の遺産保護の現場に直接的な影響を及ぼしている。中でも都市化や観光化、環境破壊といった社会的な課題に直面する世界遺産に対して求められることが多くなった遺産影響評価は、現場に少なからぬ混乱をもたらしてきたが、2022年にUNESCO・ICCROM・ICOMOS・IUCNが共同でとりまとめた「Guidance and Toolkit for Impact Assessment in a World Heritage Context(HIAガイダンス)」によって一定の整理がつけられた。そこで、今年度の本協議会は、世界遺産をめぐる最新の動向を提供するとともに「HIAガイダンス」の考え方を共有し、HIAを含む世界遺産の評価のあり方と制度運用に関する大局的な理解を深める機会としたい。

参加申込: 11月21日(木)〆切

申込方法: 東京文化財研究所文化遺産国際協力センターウェブサイトをご覧ください

<https://www.tobunken.go.jp/kokusen/whs2023/> (右 QRリンク)

お問い合わせ: email: ishida-c2p@nich.go.jp 03-3823-2420 (担当:石田 / 平日10時～17時)

〒110-8713 東京都上野公園13-43 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター国際情報研究室

